

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年11月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.33 「セグメントの重要性」

「あなた」は、島田紳助氏が司会を務めている日本テレビの「深イイ話」という番組をご覧になったことがありますか？他愛もない？バラエティー番組なのですが、時に、大きなヒントを私達に与えてくれます。先日の番組で、伊集院光氏が次のような「深イイ話」をしていました。番組ホームページから転載します。

4年前、奥さんのプレゼントを買いに高島屋へとやってきた伊集院。

伊集院：すみません！コレ下さい！

が、しかし…。

店員：あいにく在庫を切らしております…。

なんと売り切れ！すると…。

店員：少々お待ちくださいませ

そう言ってどこかに連絡をとる店員。

店員：今、伊勢丹さんに連絡をしたら在庫があるそうなので、

お取り置きをお願いしました！

伊集院：えっ!?

なんとライバル店の伊勢丹に電話をし、予約までしてくれた！

伊集院：自分が損をするようなことをあえて言う店を俺は信用する！

その日以来、伊集院は高島屋を信用している。

高島屋では販売員を「買い物コンシェルジュ」と位置付け、お客様の利益を第一に考える販売行動をしているそうです。私は、この話を聞いて、「我が意を得たり！」という心境になりました。

数年来、セグメント（絞込み）の重要性を説くときに、次のように話してきました。

「あなたの塾が本当に役に立つ全体の2割の生徒にセグメントすべきです。もし、あなたの塾より隣の塾の方が合っていると判断した場合は、隣の塾を勧めてもかまいません。そのことで、その生徒は隣の塾へ行ってしまっても構いません。しかし、その家庭は必ず言ってくれます。もし、子供の勉強で悩んだら『あなたの塾』へ行け、と。あそこなら、本当に親身になって相談に応じてくれるよ、と。」

一人でも多くの塾生を獲得したいという気持ちは重々分かります。しかし、「誰でもどうぞ！」という塾には誰も魅力を感じません。あなたは地域の塾コンシェルジュ？になって、何が本当にその子のためかを考えてあげるのです。その上で、あなたの塾が最も相応しいと判断したときには、堂々と「お任せ下さい！」と言えいいのです。そうした真摯な姿勢の塾には多くの見込み客が集まってくることでしょう。

以前、とあるFC塾のオーナーズ・セミナーで、セグメントの話をしたとき、一人のオーナーさんから反論されました。

「私は、私の塾を頼って来てくれた人を取捨するような高飛車な態度は取れません。全ての人の期待に応えたい。」

その姿勢と覚悟は立派ですが、誰にも得手不得手があるものです。また、子供にとって塾の合う、合わないは確実に存在します。セグメントは高飛車な姿勢ではなく、逆に謙虚な振る舞いなのです。また、そうした微妙な判断は、学習指導の素人である保護者や生徒本人には難しい。

あなたはプロです。

プロとしての判断とアドバイスをしてあげましょう。それが、私が主張しているマスター・ビジネスです。間違いなく、人は頼れるプロのところに集まってきます。

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年11月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouku.co.jp/>

業界
TOPICS

vol.08 「教務の充実」

百年に一度の経済不況を背景とした景気悪化や先進国で最も深刻な少子化など、教育業界を取り巻く状況が厳しさを増す中、各地の塾は改めて「教務の充実」を最優先課題としています。その具体的な取り組みについて全国主要塾に聞きました。

15分単位で一つのポイントを研修

東海中部大手P塾

「当社には約190名の講師がおりますが、今年度は、クォーター研修という、15分単位で一つのポイントを研修する形で、毎週木曜日に、全員で研修しています」

成長を維持しているのは人材研修にほかならない

関西大手Q塾

「毎年前年比で+10%以上の成長を維持している当社の最大の原動力は人材です。マネジメント研修や各教科の分科会、教務研修などにより、質の面でのブランド力強化をつねに目指しています。中下位層から上位生までの指導においては、研修に裏づけられた人材の質が最も重視されると思っています」

三つの柱で模擬授業の研修

首都圏大手U塾

「当社では、『パフォーマンス』『テキストの編成と理解(カリキュラム)』『過去の入試問題への取り組み』という三つを柱として、模擬授業を実施しています。『パフォーマンス』の部分では、アイコン

タクトにより、生徒の興味を惹きつけているか、理解度チェックが出来ているか、声の大きさや出し方に留意し、教務指導の基盤づくりをしています。『テキスト編成の理解』では、学校教育の一步前に行く教育プランが立てられているか、または受験合格に必要な学習を、より効率よく、かつより効果的に組み入れることが出来ているかを重視しています。

そして『過去の入試問題への取り組み』では、過去の問題傾向を幅広く知ること、"なぜこの単元が必要か"ということ踏まえた総合的な指導が展開できているかを重視しています」

最新情報を基にした進学指導研修を実施

関西中堅R塾

「教務の指導では、教えることだけでなく、受験学年に向けて進学指導が重要となってくるので、最新の進学情報をしっかり捉える研修も組み込んでいます」

定期的な授業チェックで授業の定型化を図る

東日本中堅X塾

「生徒が自分で考える授業を推進しています。そのため、ビデオ相互授業チェックを全社員で、また、ビデオの社長チェックを新人対象に定期的に行い、当塾の授業の定型化を図っています」

一般的な塾内の教務事項

新入社員や採用予定講師への「初期研修」に始まり、各コース・レベル別の年間学習カリキュラムの作成、通常の授業および休み講習や特別講習用教材・テストの準備、および、その指導法についてのマニュアルや指導案の作成など。

歴史に学ぶ。

< 勝海舟の嫁 >

異国の嫁をもらった勝海舟

嫁といっても勝海舟の息子の嫁です。クララ・ホイットニーは米国ニュージャージー州出身で、海舟の三男、勝梅太郎の妻として一男五女をもうけています。父親が開国した日本に、商法講習所の教師として赴任するのにしたが、母アンナ、兄ウィリス、妹アデレイドとともに、1875（明治8）年、14歳で来日しました。

ホイットニー家を日本に呼んだのは、当時の政治家森有礼がクララの父の従兄弟である言語学者と親交があり、これが縁となって、東京に開設した商法学校（現一橋大学の前身）の所長兼教師として、クララの父に白羽の矢が立ったのです。

来日しても家計が逼迫し、クララの父も商法学校の開校がままならない状態が続き、それを憂慮した勝海舟が私費を投じて窮地を救ったのが、両家が親しくなるきっかけでした。勝の息子小鹿は米国アナポリス海軍兵学校を卒業して帰国予定であり、三女の逸子はクララと同年で一番の親友となり、死んだ妻の子を養子として引き取ったのが三男の梅太郎でした。

兄ウィリスが東大を卒業してから一度日本を離れたが数年後再来日しました。そして、親交のあった梅太郎との間に子供ができ、今で言う「できちゃった婚」に至ったというのが二人の国際結婚の真相です。

米国に帰国しても続いた勝家からの仕送り

役職から離れ、著作に専念していた勝は、経済的に苦しんでいたクララ一家、特に梅太郎とクララの新居に毎月手当てを渡していました。当時の国際結婚は、このように、資産家の子に外国語を教える家庭教師との間に生まれたものが多かったようです。

二人には一男五女ができて、勝海舟は青い目の孫が六人もできたことにはなりますが、ホイットニー家では英名を、勝家では和名をつけて各人を呼びました。

しかし、勝海舟が1899年、79歳で他界すると、クララ一家はいよいよ日本には住めなくなり、米国に帰国しましたが、最大の理由は「子どもたちの教育」のためでした。そのため、勝家と親戚は、毎月五十円ずつ出し合ってクララ一家の子どもたちの教育費として仕送りをしていました。まさに勝家は日米の架け橋となっていたのです。

クララの明治日記

クララは1861年に生まれ、1875年来日してから1936年に死去するまで、大小17冊に及ぶノートにびっしりと膨大な日記を遺しています。不安なまま来日して、話の違う状況を恨み、勝海舟の助けの手に涙し、その後の苦難に満ちた生活を自分自身から家族、そして親交のあった日本人たちを交えて詳細に書かれています。（「勝海舟の嫁 クララの明治日記 上下 中央文庫」）

純粋な少女の目は、初めて見たファースト、日本の風俗と明治維新の世相と活躍した人々の日常を飾りのない新鮮な表現で書いています。また、母とともに励んだキリスト教の布教活動、外国語教育の実態なども記されており、貴重な資料としての価値も高く評価されています。これを読むと、異国の人たちとの交流がいかに大切かがわかってきます。

取材/記事 : 新教育産業監修・月刊私塾界記者 千葉誠一

勝海舟

幕末期の開明的な幕臣。文政（ぶんせい）6年生誕。木戸孝允、西郷隆盛、坂本竜馬らと接触があり、彼らに影響を与えている。戊辰戦争では、江戸が新政府軍に囲まれたとき、主戦派の幕臣をなだめ、新政府側の西郷隆盛と会談して江戸の無血開城を実現させた。維新後の1869年（明治2）兵部大丞に就任した後、海軍大輔、参議兼海軍卿を歴任し、のち元老院議員、枢密院顧問官となり、伯爵になっている。明治32年1月19日没。墓所は、別邸「洗足軒」のあった東京都大田区洗足池畔。

ご意見・ご要望をお待ちしています。知りたい「テーマ」や内容などについて教えてください。
できるだけ対応したいと思っています。 ご連絡はこちらまで：magazine@chuoh-kyouku.co.jp